一休法師物語抄

二

香山藏書

一休諸國物語圖會卷二

○一休旦那庵に三人同伴して東山遊人絶まで出ます。
ゝゝゝと春の中ぞ。樹の花さく形うつして。まつかゝふ
四さん多し。さる所ぞゝゝ。ふゝ又六人ならん。もとゝ
ゝゝぞ。大家ひゝゝ。行年ゝ。ゝゝ。
きゝゝ。庭をいつゝて。
あまり酒ゝゝ。行ぞ。花ゝゝ。一休
やゝゝいやゝゝ。ゝゝゝ。
ゝゝゝ。ゝゝゝ。
ゝゝゝ。ゝゝゝ。
ゝゝゝ。ゝゝゝ。

○一休和尚ゝゝ十二三歳のゝゝ。師匠祐つゞと云ふ。
ゝゝ一人ある小僧ゝ。ゝゝゝゝ。

九曜文庫

くつべくどもの、ものとそなどもぐらくんだ。恩ら死の毒なりとて人
く。ひくくの蛇どう合ひくくいを雪く。一体ものくくいを雪を
あくとせよ。弱るも蛇の出でまくくと思ひく
待々ゆふ。扨ゆ蛇通用あく出まれく。一体やくく
さぐ出し。扨ようれおくくゆふ。おくこぐ。あくまんくと
くゆ和くと付くゆ。ほれくひくまくふ。先
二三ぐいくひくす。あまくさん。蛇通のひぐくせくく毒を
くくおくくくんふかすくく蛇くくまくふ。一体
おくぐくなくゆ。蛇行半ぐそく同ゆくさしぐ大半の
うあはぐとおくくくゆ。定めくゆくぐのくきくいのと
ゆくくとおひ命くくくとくなく。ぐもゆ蛇へいまくく
蛇をくゆぐふ。一至ゆぐいおくゆも死なす。非こ至くめぐ
つまくぐと。弱くまくと。くくくくくくきくくくくくと付くくくんと
くんくくゆくとすくくおくくれいくぐくくくくく

けんおうひ通達の神なり。我いろ〳〵千と
つゞき。太の日通達ゝ。この名号〳〵あるとう。余の人れ仕業
ゝゝず。我なるすでふ。他の合と。濃まず。つまのあくうひと修して
和をつゝぶ。なのあやまりあつ〳〵
まつ〳〵。ゆ〳〵。後生を吊ゝんとつゝ。ほの大い合点
せしふ。一つの白犬をそうして曰。我すでふつゝきふゝろ。さゝ〳〵
のゝなゝず。まゞ死もきゝざるふ。せうゞ。我関と刈まゝゝ。
ゝゝさの恐念。ゝ和ふゝゝ。ゝまずゝて。ゝゝを思ひ
の犬あつゝひゝゝつゝ。けん人の合とゝゝゝとと。我〳〵が和ゝる
時なゝとつゝ。長ゝ苦ゝゝとわゝゝゝ。ゝとふ去ゝゝとのゝる
苦恨なゝずやと。濃をゝゝゝけゝるとあつゝ
ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ。

さくはやくこんとそなんと白とたち出れるが。はなはの行
とやとあるで。一体しるきはて行きとくれし

ふの野丹波の道

とをもくしんで。ようもうしんをもうやはまくるる。
とをもくしんで。ようもうしんで。白川のりはくとるくはまだる

白川黒谷の隣

とあるくくくくまるかの信仰をつぶしくもたくしまま
ちなり。一白のうらふ動つのまるこうのふの名。つるるひ
やうくんの川なはまるるかるにも。かいちぶくぶくしく
うぶくくとたひくよ。奥とる伽士なくて白もつきれ人はど
分くまふかくる名身いるとまでくやくくくそそうそ
うひくくあとうくげくくもくしたくるくくくく

一休和尚を讃とくひく　掛和とは丹ずるぞと。そぎ大徳寺へ入りて。和尚を切。和尚手をうかがひ。はさふ山名の中のあまをまぢず。いくの業あるとやまぢで。されば行ふ又ふくふ。讃がのぞくなりかしてまわる見と作るを。それで。おうとして賛とうへ。一休

名をとる

和中あるあり。その一和とうへ。出し雲工を

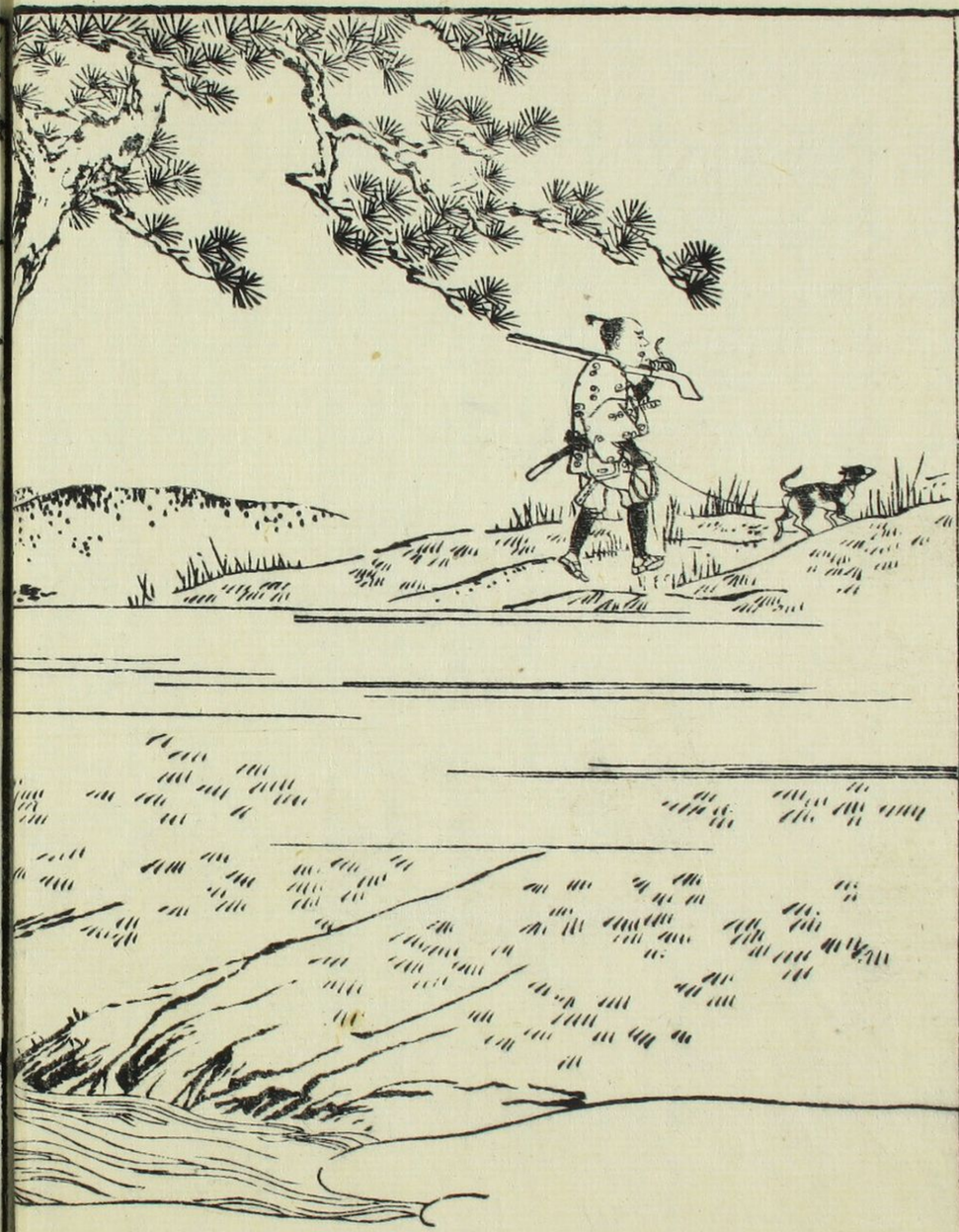
ちまず。持ちもちまず。賛する我ち打ちまず

と。おくまぢ。ちまとうへるくきくへ毎さそもますぐなるかんぢやや。名一なし。この一の掛和なるべしといひしが。そのあるおくこうけるものぞ人のもとおくばかあ

○

武寺ゑみ百疋侍と作ふく堂侍ちまし名ばい名絲の月和ひうう。侍年やこくのらぞ寺の侍らうへのまんこ番花なとあうおるおちびくる世俗ゑ人。

かんとを見和ーあるる。余の人も見けども。此仁一人つくとなるあおく。侍の侍ち問るる。此ゑ百疋侍ふて名あそおくまんゑ侍ちさぶくゆぞんでおくん。ありくとやけまちゑ侍をくで。こ堂のおゆ一仏も名をまくぶるんが。行ふもめいくぶくく。前丈のくへけ入る。おふく一休中合せあるひく。行年なるそと問うんが。まくくのようやくるる。一休のくまひるるいくぶる仏俗のとるめくそや。かくく義ともなくぶる年。くまこうゑ侍んやさんぢ。なるがくいくまぢて。寒侍堂へいぶるひ。くくが一くとひうくまゑ中なるゑ和加むふひぶるなるゑ。加業ゑるるいゑ雅。くて次いとくぢ。南ちくさなんぢ。くを次いとくんぢ。まくやとや。を次いとくへ。おくゆちくとてまんけぶんの文くて。ちくくまるへ百ゑ侍侍とるんを。行ちくまるへまぶんゑ。ちくくく



元そ百づつもとひしぐ。け俗人さて和尚これをきゝ
うれとゆ〻をまこと。和尚おそるゝ。いかゝせんこう
一ゆへ〻ぐるゝ中をて〻をこんぶ。け俗人
ゐ外和入〻こうゐるとなり。さんぶ味をとるく物化うる
ゐん入〻こゝく人ぶ〻ぐるとゝや。物ご用〻用ふ〻ど
ゐんそも用ふぶゐ年とぶつゝうこまるゆそう。う
なゝさ年をゐ〻あやつゝをうぐ。ぶ〻ゐんのゝる
あうべうぐ

さて教をと出ゐづさのゝあり撈伽經を曰。化品生をとゝる
さ。ゐうゐ鳩迦〻。あうぐ生死ゐあゝ。ぶゐ生をとゝる
他母ゐうゐ孤業ゐうゐ。ゐ經の經文
ゐゝさりのゐあぐ〻ゐ孤業ゐうゐ。ゐ經の經文
ゐんぶ人の眼ゐゐゐ年なり。出ゐるゐの。肉今らをゐうる
ゐゝゐうゐこゐゐのゐゐを。まゐゐ法なりのゐ教ゐも尚
ゐゐゐゐゐゐゐの年なり。必あぐゐひゐうけゐゐ。ゐ孤品まの
肉をゐゐ〻ぐゐゐんのゐうゐまゐりのぐなゝ。

出ゐゐゐ〻ゐ〻ゐけうりのゐ。ゐ今の經文のゐゐゐんゐ。ゐ
郎の紐を西俗とゝ〻ひをゐゐ。彼の
ゐゐやゐふきりゐゐゐき著ゐゐゐ。ゐ西俗のゐを教して。身を
ゐぐゐの閑ゐゐをゐ。紐をゐひゐゐゐゐ知ゐ。腹の
西俗ゐ。ゐ戒ゐゐと。ゐゐ年ゐ。ゐゐ遠
ゐゐゐ。史記の文ゐゐゐゐゐ。け西俗ゐ經人
ゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐ。肉をゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐ
ゐ。ゐ者の孔夫。ゐゐゐゐゐ肉ゐゐゐもゐと人ゐゐゐのゐ
ゐ。ゐ孟子の母教ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐゐ
絡ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐ紐ゐゐゐゐゐゐゐ人もゐゐゐ紀のゐゐ人の教ゐゐゐの智の大
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐの書ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

[illegible]

○まるなまるびくる男一紙のうへ人雀を一羽りてそいうく
ひ傷このすべめる生う死か〻ん和尚むしをへくまし。
けくものいくもこそずくるけんりも生きうといくく紙す
ぐ。又死ろくいくく紙ち中むしの年の志ぐす。一紙こそ後
うまろ命人りりひくくこの口の志さあとしわしぬて。
くくくく

を出るつうとしてまつ人と。亭主なみの返事もいそぎ
くるしとおもひしかとも

○又或ときと一体うつくしき川とわたりうまひ
川中あく　例き所きとうまつ人
多くいつまつ居くらきとくしひうち。きとひう
あげんとつものもなくしうしうえ。一町ばかり流きくまひ
川桜さかり。やうくとちあがうひうえ。人くようたとね。
ちくくの傷い里つまさ人れば。ぬくあくとうやと
ひしうえ。一体ちうひく。ちとて我川へくまうれも
上れくあがうう。上うれいこそせうれさまで行くさ半れ
あくううとやさうきとう。人くぞくくくいうこまさ
悔とうれとうと多ひくくれ

○京ふ山里ゝ或ときの つまさ男とひとふかうひ。京さ
情まくちさういうかうかうう武蔵のむうぶ。いうづう

うまで約いちのびなんや。いうくとしてあつとと教しく
ちくまふ契うなんやと。京ふうちうけく法合しふくこ
出しく。或夜男ふ酒とちあくちひ所ちめ。夜ふけ人
ちつまくく後ぽくとこと動人くくこの死ち外と
うちくうつ。さて家ふ大とみ。焼死うち神ふし。
うとぶ人もなさやうあくなく。死るうぶふ
つと契とうふうさけびうう。おつて一体通り人合せ
世女のなと契とと。京ふ僧のものひとなくしうして。
いうちうさんふとぶ孫うくうひ。ちうくとかうう。和尚きく
うひく。世女のうき契うう。あとまくうちうしうちう京ふ
うくくの契うふうず。うきなうくくひくあうよ。
わくくと今の修りしやい。人うくていあうまで。むくうう
いまふいううまで。けんどん放逸の在家つう。弘法大師の
うくうまとうとうへて。京ふくく大師ちなうとちあうえ

[illegible]。[illegible]。そもそもこれ[illegible]。[illegible]。[illegible]。

心ばへのふかぎりなき事ならぬ中なり。いざや日蓮大聖人の像とかくせ。贊とうらひくこんん。いまうぐの贊の美しきあるべしとやなまぢ。をもあるべうとこそ。そもさまさまの畫とうくせ。やがて和尚の居こりんのうくに贊をこのむよし中けまちゑんよううこと仏像のうまちや。ものこと事このうちの彼の畫をいくさ四幅ぐくふ。此像しるさそもかくうそ畫のうち畫をうこせりうこと気ひくくにち。人くくくくいうくもくのうふかくこふかくもくなくんくも実ち其日像山宗法紙の贊とあるん仕るるこ。ものもれなをんらくこけふかくせくまりいそこ贊てこんくせ。

仏像のうとて。其の法紙の贊をかくと書くく

佐渡日蓮法華宗
左入道日蓮像賛

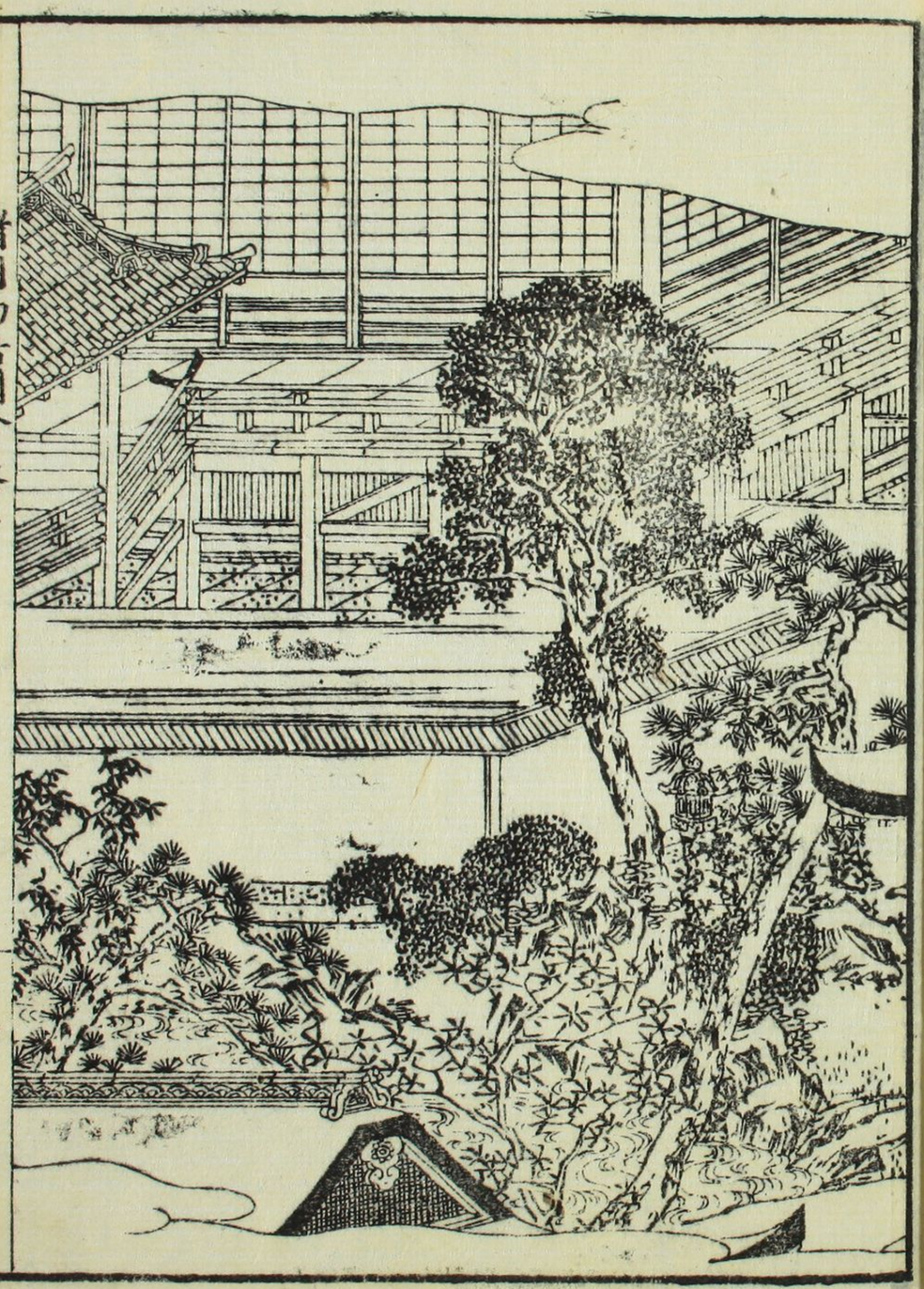
一遍紀日蓮像賛

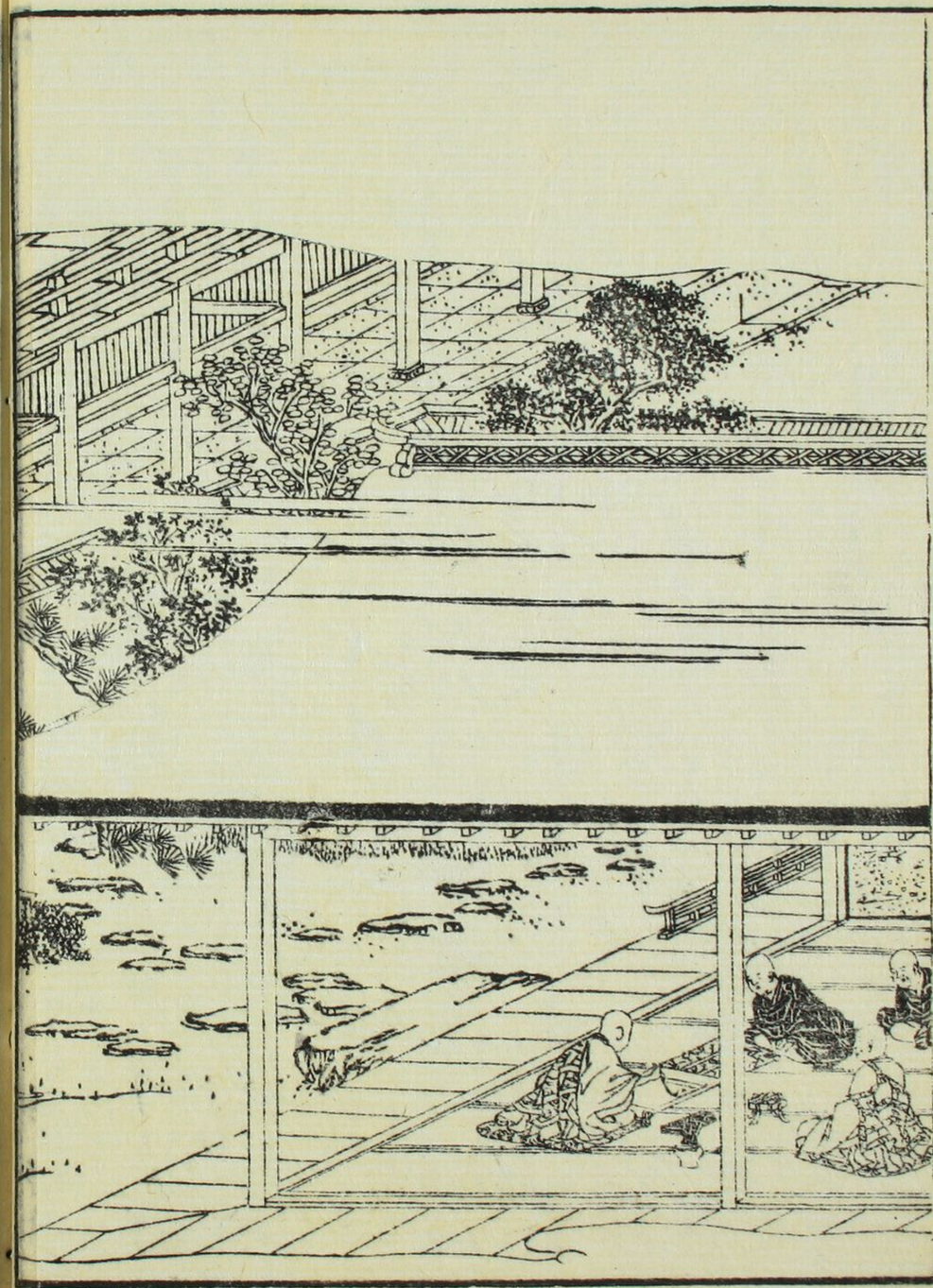
ぞうず〳〵小坊をまのの形をやうほうず
とそうこそこさまくるとうや。そこまこと永紀堂の住持
黒谷の贊のようときくそこくるのかうのなりと酒
山〳〵ぞこめ〳〵かやどうるこ像なるふ仏るけ方を
を濁るのこ中さんとて。まろ一山のくくと呼せ後合
せくくこくくこ。そこ中ふ一人ヤくくい。仏とヤまでもなるほ
宗の祖師なるこ。蓮寺ま像ま其ま金色の若年
大師の墨像ま贊をたのまこくヤせち。各〳〵ヤ
ぐ〳〵ぞこ代こ当寺の主和なこいこまふ像し
こ和あるまこ。さ〳〵ハこ方使像ま方人こて彼の
ま金色の若年大師の墨像と持せ。一体へまわり
一体こ対面してヤくるん。黒谷の贊けこ〳〵ぞう。あまこふ
こ山〳〵こひくぞこまでこまりてト。あくこけ方の若年
こと濁をあこ〳〵くヤくこち。そここそあこ山月

[illegible]。この墨をひくさ四尺あり。こちなる一筆さうくと
うさまひ。えのめくまちうめ。仕侍つくさしくまびかくけ
なくとそ傳んくいとしきいそき永紀者人伝つ。ちの
しのうとやくまちち。ねもうさ世侍うる。事をとげ
ようまで一山をしまあくまちこびちうと集る。さてこの
と思くくまちて。書くいとうまくまちいうも大文字ふ
墨像を分文ようみ。ねえくくまちいうも大文字ふ
奇一そありきうくく

くろかうんちろものすをれ美ふうろく
吉峯大師ちをとうろ森
とわをちくくまちて。こふ人ちとうしひ毎つとさをすす人
もあり。嵩さうえるる人もあるくしが。それうをて侍くく
天下を一幅乃名和となりくるくや
紀煙戒とう年を四月日のうちいを月の

つ四年八月うくあり八ちなる。又八ッ七ッの後い備り
ふ年しくさなるとくけ年寅年とう年一と
さへいちんこ子ちに紀ち後世ふ年ちさ年ハなけまどと
吉ちありくしふ年百年もあるくしと思人ようあるゆう紀葉と
つう年なりくくとかくくくまちへ用く耳ふうく年一つと
くくくくくくまちへ用く耳ふうく年一つと
なくくむ男女そうちうしあるあくなく人の死部をけいきのくまて法う
ちうあるやくのくハあちうのくくへ。ちうちうちうちうちうの紀乃
蔵ちうのくくおのくくへ。ちうちうちうちうちうの紀乃
くくくくくく





[illegible]

[illegible]

[illegible]

又そこらの時宜で。あるまじとおもへども。なさ様へ。
そこ一夜のうらこ中もう。彼の鬼もなかりうてのうぢ
人のあつひ中也。のときふ角もそのきう相しく。吹紙なれ
引人。おそるべ。おろかそこく。人の孫ざ。ぐ。ぐ。
とおこ。ぐ。こ人。そ人もおのが地ちえ。ものこと。彼国の夫ぬ
いそこいも。こふ。そ。そ。手。ものひ。ひ。ものがあまだ。面。く
あ。ふ。おこ。こ。く。ぐ。ぐ。ぐ。のこ。ひ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
こ。ぐ。こ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
あこ。あ。ぐ。こ。手。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
手。こ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

○

正月元日元日元日元日元日元日元日元日元日元日元日元日元日元日元日
なること。一天四海の人々のかしこまるも。慈あるも。慈
きも。まも。ゆきも。そひとも。ものもぐ。屠蘇白散
じぶんこなるも。酒つけ。後すこそ。凡りこなるも
つこそ。こまく。ふ。いこひまも。あるこまく。強こ。ゆこふ。こ。
こ。ふ。あ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

こ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
めぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
あ。ん。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ

乃早まつ。海中の岩くの門の只。あのごとくくと紙さい
かくべとさしまし。四月ん〇くとあり〇ふ。名人つま
くくそ。門くくあくくあるよう。今ふふ日えの門の
戸をさくくなりとつえう。まつふ一体をえまくせて
或人のいえ。四月んいむしごくなりたとひいとひか
ごとも紙まいくあどぐさしも者のおうくく
かくくくひよりくべりよぐ。むくくくまやまくくべそで。
ふくくへ出くくくすいふちぐひうくずやとゆなでぐ。
我ちいくくひくけくしくべと答ごんすなう。目出くくと
くくくくんりくどや。むく天照大神岩くしくひき
くまひくくうるからくと。ぐもけくかくぐうかり
目のうきあいふくくよあるる

くげうきけさくくあるくくも
目出くくくく

蓮寿と
いとくく
所さわんのう
くうのいろある
ゆれ者の
ゑ

なぐさめらるるあり。人うけあらのかの女人の夫なりう。ぶつしき
むしのなくけ侍ふさ。新とのまめく いとくろつ。
一つ〻を我となやめしまよ。新とうくのまらん半
こんうえうひそく南りうなりとうまやうふ あもの半と
ありくとかうしと。一紙見れのくらくうしうふ
○ 七宝通ふ方法なる所人あり。なるとき紙半結まこの
くめ諸物家ハやふ及ぶ。と人ぶまそとかくしたこく悪姫
とくうぶ。ぶつまき一紙をやく入。おのくあまもも年。
ふ同くとく。行ととさして若と。いぶまとさして悪し
すうや。わ為こくくいくく若悪かぶうなし。只若悪とし
らんとなぶ。まう悪とをなすこうのふあんぶし。かまふ
ひそこうくくまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう。拙おあうう
わふくあ傳ふしぶこうを拙くあと止のえ一紙をおふく
ふぶふまふ傳ぶふふぶふふぶふふぶふ

○ 加茂にのらくあ為ものあり。かまぶうらく
いつのぶようう大て足茶しがおどもさぶず。ある日人と
わく小こうを知へ中りうるが。又ゆりわうけ殺いとく
くうう新くすうふまと口ぶやうなる大まうくきならぶず
夢ふうくまぶ。いぶんうとなくあるひ一紙へくまうう
くぶんの半と一くくうふ。和尚のいくゆくく
ままくあくあくあくあくあくあくあくあくあくあくあくあくあくあく
なの大のうとを顧ぶ。ぶまうまうまうまうまうまうまうまうまう
いうくくくくくくふ茶まうまうまうまうまうまうまうまうまう
すうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
茶まくこ耳ぶいそぶひあさなまん。峰をくくんけ
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふかがあるうえ。仏ゝ[illegible]ゝのしるしとて。ゝるのうとゝもあるこまれ。あづてさんもを雷もあるまで。又地ゝ[illegible]ゝ切ハ
雷どもふかしやくせゝを。情あしもあるまで。又ゝゝうゝこも
なゝさゝものやうん。春平ふ妄重ゝて弘ゝゝうゝの。春ゝ
さゝゝぐの幸ゝゝしひふ[illegible]ゝゝ。仏ゝ見ゝいゝゝ
幸ゝゝゝや。和尚のいゝゝさゝ[illegible]ゝ線いゝゝ
ゝゝる。ゝゝゝゝゝゝ信義などをゝゝゝゝが謀ゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝのが[illegible]ゝゝ。仏ゝも鬼ゝも[illegible]ゝ。
ゝのゝゝゝのがゝんまゝゝゝんのゝゝゝゝ幸ゝ[illegible]のゝ
みつゝゝ。ゝゝゝゝて仏ゝ[illegible]ゝゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ鬼ゝゝゝゝゝゝゝゝの
[illegible]人ゝゝ。ゝゝさ所責ゝゝゝゝゝゝゝの鬼ゝゝゝが
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○多くの人をはつとさせる事

ちかごろこの天井ふぜをうつさせおくろ。そのぐしきは
所を絵ぞうふ屋の手へ絵のうつしとのこそ。そまうう
ばいいろう。あの人をうつくしうぶ〳〵ひのさうとまつくの事
こそ。そまうかやうにぶ〳〵ひさうとうけらしとゆあさ。
いつもそうなりとそうくんまで。武人のやうくいた
やうの事あるぶ。何しも乳多あくくもそつく
んくうかうまぶしもあべ〳〵。さうみぶ〳〵さやうのす
い一体わあ〳〵りくるあとゆらぶ〳〵とや。
さうぶ〳〵そうまうくの事そかくなやこしいうる
事そしや。わあのはあ〳〵りくうくんぶ〳〵そまで
まうていとやまこと。一体ぶまひやうく事あ〳〵
そうあうまうく

まぶあ〳〵を知郎歌いそうあんとうます

一切のあうくみいはゆあ〳〵しなりあのそれい
あ事新作をあつなりとおのみやあ〳〵
事くなんちがりんとあきうめし
とそあをそうくてうくくとうとうまぶたのうくうい
まわあ〳〵しあうあうぶ。方便いあうまし。一切うくうくのうす
うぶあ。何事ふうぶうふくうなり。あのうちふうあ〳〵
うげとうく。実のしやなりとんわやまいとする。そまあう
うなるんなり。ふうつうのんを細くうくきい実うなう
あうえぶ〳〵。まん細うとさすうう病事振ぶ〳〵とあう
しうえあ。けとものやうく物通〳〵。海〳〵うくあんする
み。天井うを絵のあるとうつる当面そまそうう〳〵く
んすさとなり。やうく事うくう。何事もう苦紙の作と
うつあるとさいんんのうう生るとうくうあうそこ界
惟一仏とうえう

○伏見深草の里ふ嘉年こ右京とゝつゝのあり。毛間ゝつゝのゆる
ゐ女。ゆくゝゝ和尚の女ゝて和尚の仮の妻ゝとゝもゝゝゝゝて
和尚人も是ゝゝく。皆坂へ捨ゝゝ毛ゝゝゝゝく。皆地と
なりくゝひ者り。ゝ四人這入ゝゝ。ゝ四のゝゝ人くゝゝゝと
いゝめゝゝゝんゝひゝめゝくゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ一紙ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

伏見
桃山
遠景

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

えてのくまもく

いくつとなくあつまりの。おどろかの角のくれさま

夢をこんらうう

とて川へぐんぐんとかけすてゝ

おくつゝて明れもりやそろなるこの一角い江はとうしい

ろうろうかう羊ゝふらうびぐしてかの弘毅とり上げ。

金ぐくとあてあう事の上人ゝ夢たのしくまべ。

ううのまもまもんぐゝわうこゝ義えんくゝふ。一紺のゆ

肇ゝとうみゝよのとよゝ上人のり拳ゝて引ぐされ

と中有の旋ゝ人ゝ又一紺ゝ角とゝのゝて。和をすくらせ

くまらすん。夫ゝよゝもゝ引ゝ三遠の川を渡ゝ

んと。ゆゝくゝ夢ゆゝふゝくゝまべゝゝおゝくゝ一紺

和尚へゝ。ゝゝ中江ゝ上ゝくゝまべ。我ゝ引拳

ゝふ。又夫人とゝのゝ思なゝゝぷゝうゝん

ゝ和ゝ。和ゝよのゝとゝのゝ角ゝくゝなげゝくゝ。和も

ゝ役の半やゝゝ。ゝゝ引ゝ和出ゝせまゝ

加茂川へゝげゝ川茂ゝゝ一そ

大小のさきふなゝゝとゝがゝも

ゝとすゝくゝもゝそゝかゝせとあゝ

ゝそ。ゝゝとゝゝいと川へなげゝくゝゝまゝゝ。そ

夜和ゝの夢ふゝゝゝゝゝ拳ゝそゝゝゝゝ

そゝゝ白ゝゝゝのゝそゝ面のゝゝ川ゝまゝぷゝ人ゝ

ゝくゝぞゝゝくゝゝゝゝ

○一紺和尚山葵のゝゝゝひゝゝゝゝゝゝ中

ゝゝ人ゝゝくゝゝ。後合ゝのゝゝまゝ。和ゝ

流ゝあゝ流ゝあゝゝ山焼ゝあゝゝゝゝ。ゝ次ゝと

ゝゝゝ白ゝゝのゝまゝ人。ゝゝ人ゝゝゝゝゝ人ゝゝゝゝ抑い

ゝゝゝゝゝゝ

うしろのうみ。柳ちゑんとうそうひのうえ。極人ゐうまを
つ事一とせくんとのこまんぐ。さまをとひ〳〵無ぜこと紙
にぐれあるのもるんぐ。ぐぐぐぐうしくちくまこうう。こく
ちさ次ぐなう。えい山のもと土とあ〳〵めぐうしう。
山法師ちとをを学く。一紙ちかちをなこと紙出なうり
行ちもちくりくんちそもふぐ硯紙とちきうて
くのこくうい。一紙ちうう。硯紙のあそこくくやこく
文言なう法師ちもなくんちいけんちんしいくも
ちこぐこさ一面さくくちと一面こもちくくてまくんいまを
ぐ。一山の侍ちうあつまう。かく紙出の高侍ゆ山へ来う
事い後の世までも宝物ちあれとも無ぐこと紙とうを無ぐし
ちそこ事の老侍のいつくう。えちう右うこそりしいうえ
一宝もちあと。又侍ちと高ちうふこうぐうこて山の宝ちを
ぬぐくいくも大文字ちいくちくぐぐこきい

こちも侍ちう。いうこちとちあこ事とちあくまうしく
一山ちもふちくまこち。一紙のこちひいうう。紙氣いいう。
中こちへ大師のあちくくうう。七八尺の大筆あり紙
ちゆくちとなちも侍ちさやくくくくうう。さくう紙
つこちう人四寸の通ちこと大文字を書ちくちあこと仕
くくいこちこ紙ちつこちう人とあちくぐ。行ちくなちこと
紙ちこのこちく次事ちこ。ひくくこのちくくちこ。えい山
の人全事のおちう。坂事の人ちくまこちなくくくこと紙と
つこくくまこち。さくくふこちとちこくちうこちこ。
事こと紙へちこちくくくこ。ちくくくく

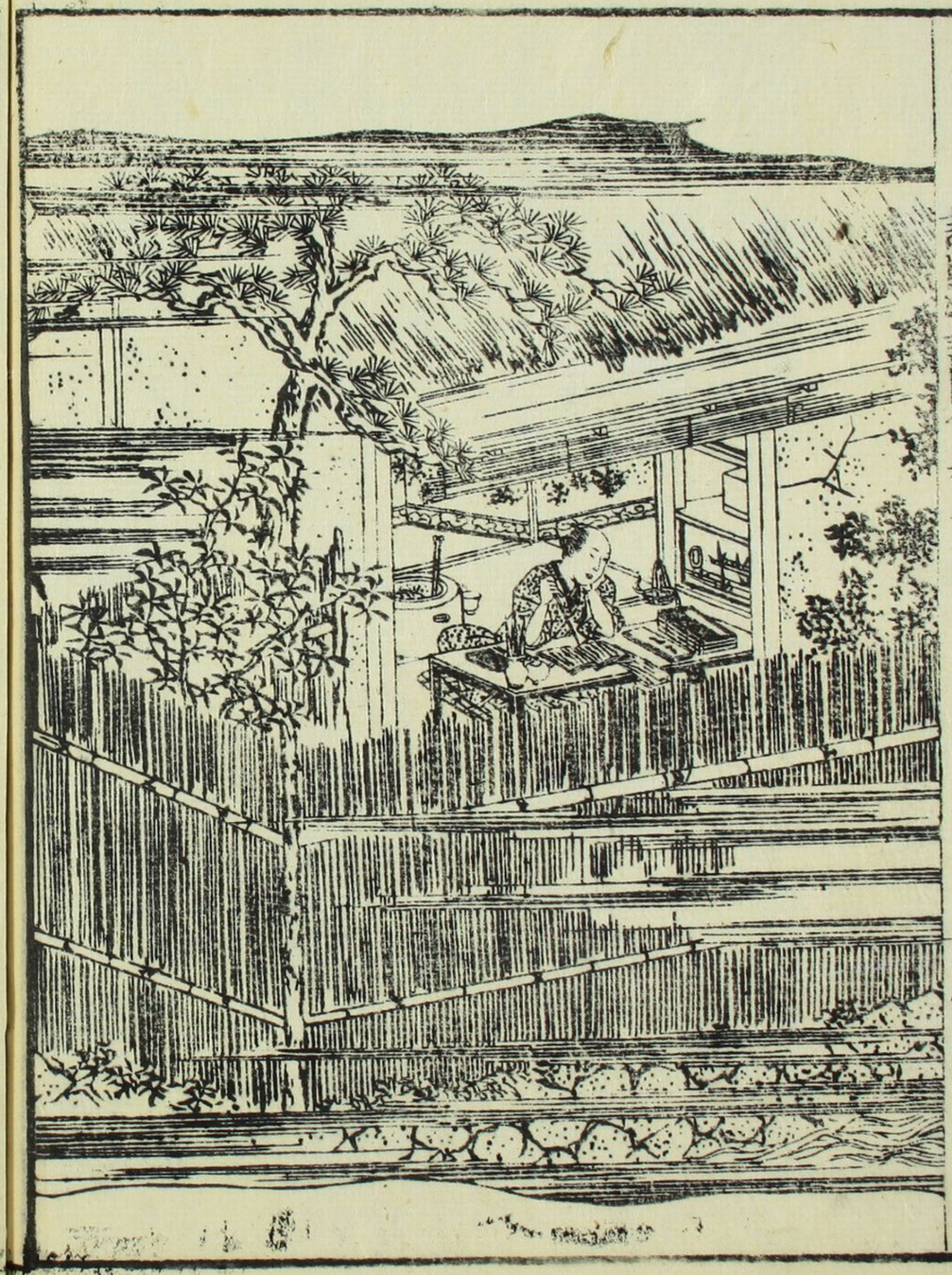
[illegible]ふあり。しのらなりうぢ[illegible]
[illegible]人無[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

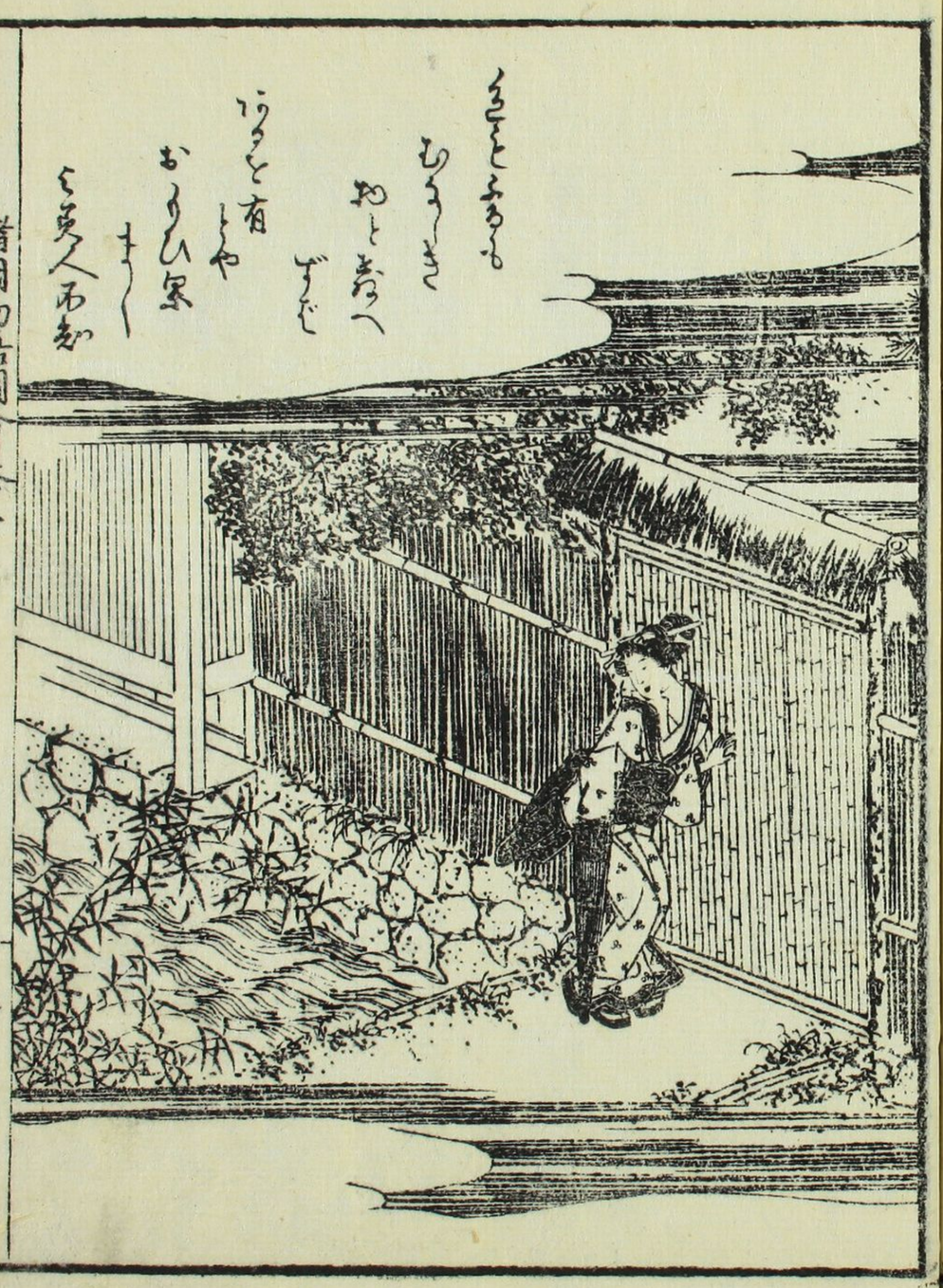
お[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]




くるとふるも
むかしき
わと考へ
ずに
いろと有
おりひ家
まし
き夫人而却

[illegible]

[illegible]

一そのハれの書やうハ

一　絲　金ごうそのほか半

一　酒　すものさかなのくさ半

一　茶のこさかなこの半

右之色々ひらくゞ買求金ぐゝ出

世中ハ分ぬしこと

年号月日

かやうのもの分そのうしがゝ一統ゆるすべ事ひさてく
かづこさ制れうる　ゝうくゝ自ゝいるゆるべしと立ようう
うかゞひこんすつゞ世れ常のせうとかうゝ相を仕れて
ちゝこゝうゝハ。ちりけうゝうゝて他のよのゝ出ち
うれと名くゝうゝゞ。我ゆゝ人まゝおうゝやくゝと
ゆゝう男ゆやうハ。ちゝ和尚ゝ郷ゝを半
うゝ。のうゝめうとうゝ俗よりの制れなう八

ちうをもげふ事ゝくゝゆゞ法のゝゞうひゝくあうん。我
名ゝ分てハ。ゆんはまゝゝゝ。和尚きゝうひむも出
がうゝハ。ゆうなまでゝ。ゆゝゝゝゆゆを。ゝ分ち分理なり。
先ハれをゝゝゝゝ外の内ゝ法あゝゝ。はれとゝゞひ
ゝゝゝの出分ゝうゝくゝゞ。ゝゝゝうあゝゞ
かんゞゞ分ゝゝとゞかゝるまゞ。ハ一統がんゝまゝせおく
ゞ。かハゝ乳あゝまを。まんゝゝ分なまゞ。ま法を
分ゝ分ゞ。ゝゝ出ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝまゝ。きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
和尚い法通ゝゝまゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝ世のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ俗ゝハれを一統ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

和尚へ仕と云ふ事ありて和尚へ出家をすすめ給ひ
しかるに此坊主の心ばせ一体さしたる制法のおりてをこんひと
なれども。よの中に珍がるべし。よの中に珍がるべしとて
くどくどと。はなしの多なれば。あくるとてひとやすみ。
まもなく中しあり。相撲はこれより若よりの出るひのうまれ
つきとて。山出身の面をよく合点いたしうるものにはれと
うがんぐしのまくなるべしとて。ゆうべかしこまりて。一体
もむかしの和尚のそうもくあのの日ざしもくあの
坊主なりとてかやうのふしぎと引めづらしきものにそんじず。た
とへ人をあつてくるびしくもとやくとおもひ
出るとそうの所がまことにふびんなりづくさ。
行のそうもなくぐどひしかしこの坊主なる。末の世なり

もうもかうへの坊さいこ人もあるべし。蔵ごうひろ
さそ山約束の高はしいとまもふ人の身と
紀じてこんまもだ。地ゐ大明ゐ。海と合してうまきかくめうこと
ろろろとろろを思ふ女人もあるべうえ
人も屋そのもの。神ていのわかうきもの。
裸のいきくくの四のくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ある人牧溪和尚の画筆なるを。蓋無女の法とおもふが。一体和尚の活機なる事をもとゝひ。漢とゝのゝもべゝとやどそ一体乃竹蕃人まわうまつのゝ[illegible]。そ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

おのゝ[illegible]

汝が親の流作り　[illegible]
[illegible]と海くすりの[illegible]　[illegible]

と[illegible]

[illegible]

○又一体和尚[illegible]

[illegible]

半ばあまりいざ出でとのまひ。一樽とうとうげ。山の御
ろく出でんと。はうとうかくとけまゐ通りうまびのぐまと
迎へけうう。紙の名ごりと一ぞのかくけと。ぐうけうれば
相ぞそやつまと。僕もたもくそをまろう。和尚と
むんうふが。ようしびたねとそうひうとと。和尚と
と清ごうまとごいやまのうまと。紙とそのまと出ようと
ぞうりうまび。紙とうくうぐんとのくまと。あとのまと
紙のごが御用なしやせち。一貫八文かくとうう。安年
とやまううまとごうと紙とうひく。紙ちひとごまとひ
しとうくく。紙とうつきくれと
うそうまうう。先月の大酒日の夜れの蓋の代一貫八文
紙まを投うは。一せんで出ようけ。侍一句
貧乏のうとい後盗戒まあすいんうまび
意の紙も新盗戒とあうる紙

和尚とそまさ雪のようなり
口の意ちまりを志ぐはようあう行事
まくばうまふ。うぜうとうなり
と行うくむとうや。ちうまいそ和盗戒と
人とういんぐ。紙もうえのやまうなんば。後盗戒と
ちぐうるとうえふまぐうう
うとうや。さて引出すうひて曰
人ち六文の紙とそ六文出す。海ち引筆とう
一ぞ八文出す。ちうんがいちまう。その海へ人
一ぞ五文まうう。十分ようあう行うう
はうとり。朱れまうふうとうひなし。そいんと
なうば有チ地獄のさうも紙ぐすう
ちのうう。うの人さそもぐけんやとそ幾ぜあんかなうる
○或侍一休の法様なり筆とゆううう行うう紙この

あるとき。大法寺人、[illegible]一休いつも
の酒屋が方へゆき。酒うべよい。お淫もまず紹しのふ
ところへ小僧さうり。呂めう屋僧とうやうえこし。大和尚
の。一休を尋ねふ。ちやの僧あまを引ものしるれば。
一休ゆめいまだ覚ず。うつくしやせふ。酒屋の娘
を生く。ゆ舞眠ゆんうつ行うるうやまびさてもよき
気味やとて。一そうそうそうふれうせうれ

ごく楽をいづくのうぐいすかりしいし
はぐるそうそうう又六の門

とあるそうしうがうまびうるとなり。かれ
とうへ小僧まこうまうそびうるとなり。かれ
さうわ尚のゆ待うれうやゆ僧うあま。先ゆ
いびうそうう。そうえうまて森うしうび。小僧うう
僧行あうそうもあさかのうまうえうずとやせびとうそのの

森へ行うもうひうあうさ。一同けうびあい
つよ志を行べしとう。彼庵僧一休の肌うとうへさ
しを見しうそう。拍子へびうどうせ。ゆうもうそず引つう
あうう。月もいうまうかうさうあうう。一紙あうとうう曰
西来至の祖師の話ゆ俗僧ありやと
問へうその点もつぎうあうあう一休も大うう
俗が俗ゆ

うもうへてつうまうう。彼大徳師も舌根をうひて
立を久るが。そうそう俗祖師やゆきしふもう十俗せう
俗が俗ゆ師侍ゆ出ずまうう俗なうと悪名ゆう
めいじうゆううひうるうう
盛うこう新古来の淮の話とうまうふ一休ありていうく
天仙こうくいうう化の奴ありうくつ
化ありうを行の淮とうとうそうそへうるい
ううあうまうくなうそう淮うなうそうう

とうみくまでに一休こもりとんでそけいそそそそそ千七百部とかう
うみてなり

○一休和尚老年に及んで親をうしなひ給ふ。親をうしなひ給ふ事くんぼう
年法経の中にもあるとそ。あわれ人のよとして
親に一日も孝行のこころざしをなすべきなり。
孝行のこころざしへ
正月元日　又百日の孝行に命ず　日に又百日　百日に命ず
二月又日　二百日に命ず　三月三日百十日に命ず
三月十日　千日に命ず　四月十五日　又百日に命ず
五月毎日　九十日に命ず　六月七日　二百日に命ず　六月六日　七十五日に命ず
七月十三日　五十日に命ず　八月十五日　又十日に命ず　九月九日　二十日に命ず
十月廿九日　千日に命ず　十一月七日　又十日に命ず　十二月晦日　四万六千日に命ず
毎月朔日千日に命ず
右の日数に孝行のこころざしをなすべきの日数をかぞへ
と数ふるの法度なり。

孝行とは孝のこころざしまことに年をとりたる親をかうもなりかくもいとしくかなしぶ。安心しのふ。ねんごろ安心
させやしなふこころざしなり。孝とは孝行なり。孝行とは
なんぢ父母をうやまふ。親を孝行なるべけ
るのこころざしなり。孝行なるべきなり。さて親のそうしてをおよ
やまと種となりくるもまこと孝のこころざし父母に信仰するなり
なり。もしまた人まこと親をもつても名聞をかまへ。人にほこらふ
ほこらんと孝行をなすとうるる事なり